



人の輪と集落の和

平成17年度事業報告書

平成18年度事業計画書



目 次

ごあいさつ	1
第7回通常総会次第	2
第7回通常総会提出議案	3
平成17年度事業報告書	
部門別事業報告	4 ~ 17
貸借対照表	18
損益計算書	19 ~ 21
平成17年度剰余金処分案	22
付属明細書	23 ~ 24
監査報告書	25
平成18年度事業計画書	26 ~ 38
役員改選について	39
組織図	40
組合員名簿（省略）	

組合員のみなさまへ

本日ここに第7回の通常総会を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。代表理事を仰せつかって、今日ここまでられましたのも、組合員の皆様はもとより関係各位のご支援のたまものと深く感謝申し上げる次第です。

平成17年度事業面では、悪天候により麦部門の苦戦が強いられましたが、耕畜連携による稲わら供給のために、中生品種に特化した水稻栽培の反収増加によって助けられた経営収支となりました。

また、平成16年度大豆経営改善共励会に出品しておりました「大豆集団の部」で最優秀となる農林水産大臣賞を受賞することができました。これは大豆の収量や品質だけでなく、ブロックローテーションによる農地の高度利用やグループ別作業分担など、集落営農の取り組みが、総合的に評価された証であり、「酒人ブランド」を全国版でアピールできたことは喜ばしいことでありました。

平成19年度より、これまでの全農家を対象とした品目毎の価格政策から「担い手」に絞った所得政策に大転換します。わが組合は既に「担い手」であり、慌てる必要はありませんが、他集落や個人農業者は今まさに究極の「選択」を迫られています。しかし、「担い手」がいつまでも保護される保証はありません。「担い手」は「ゴール」ではなく「スタート」なのです。国の補助金に依存しない「自立」した農業を「実践」しなければなりません。

わが国の食料自給率は40%と、フランスの130%、カナダの120%、アメリカの119%、ドイツの91%、イギリスの74%と比べかなり低く、日本の将来に対し不安がぬぐえません。安全で安心できる食糧の供給という社会的使命を考えると、この40%を支えているのは自分たちなのだという誇りを持ちながら、時代の変化に挑戦し、集落で農地と農業を守りぬかねばなりません。

昨年未の断水、停電騒ぎはまだ記憶に新しいところではありますが、これが水や電気だけでなく食糧であってもおかしくありません。ケニアの副環境相のワンガリ・マータイさんは日本語の「もったいない」に感銘を受け、環境保護の合言葉として国連で紹介されました。今一度、大地の恵みである収穫物に感謝し、生産できるありがたさを噛みしめ、一層精進してまいります。

平成18年2月26日

人は、人の為に成らずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふぁ～む

代表理事 谷口 榮治

第7回通常総会次第

と き：平成18年2月26日(日)

午後1時30分より

ところ：酒人公民館 2階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

(休 憩)

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 役員選任
9. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

第7回通常総会提出議案

- 第1号議案 平成17年度事業報告について
平成17年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案及び附属明細書の承認について
P 4 ~ P 25
- 第2号議案 平成18年度事業計画の承認について
P 26 ~ P 38
- 第3号議案 任期満了にともなう役員改選について
P 39
- 附帯決議 この総会において決議した事項のうち、行政庁に
提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、そ
の趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事
会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成18年2月26日

農事組合法人 酒人ふぁ～む
代表理事 谷口 榮治

平成 17 年度事業報告書

部門別事業報告

営 農 部

[米・麦・大豆]

平成 17 年度のビッグニュースは、大豆の農林水産大臣賞受賞でありました。これは、平成 16 年度大豆経営改善共励会に出品しておりました「大豆集団の部」で、最優秀となる大臣賞の受賞という快挙に、組合のみならず集落全体が大いに沸きました。農業を取り巻く環境が激変する今日にあって、大変明るい話題に心が弾む思いです。これを記念し、受賞大豆で豆腐を製造し、区民や関係者に喜びのおすそ分けをいたしました。今後の「酒人大豆」ブランド展開や加工品事業の足掛かりともなり、十分な手ごたえを感じております。



作物別に報告いたしますと、水稻につきましては昨年同様 7 品種の栽培とし、それぞれの特性に応じた作付体系を組み、こだわり農産物としての品質向上に努めました。また、二毛作面積を倍増し、圃場の有効利用と労務の分散をはかることができました。あわせて、耕畜連携・資源循環型農業の確立に向けスタートした稲わら供給事業のため、日本晴を中心とした中生品種に特化したことが、収量アップに貢献しました。ただ、米価下落に歯止めがかからず、増収が増益につながらないことが残念です。

麦につきましては、水田プラウやサブソイラーによる排水対策を行いました。湿潤圃場により結果として品質ならびに反収の低下を余儀なくされました。

大豆においては、昨年に続き種子の採取圃に取り組み、「種子大豆」をメインとした栽培にしました。付加価値を求めてのシフトではありましたが、反収は麦同様、昨年を下まわり、栽培方法の見直しが必要であると感じております。

中期計画の重点方針である、「品質・環境にこだわった農業の展開」は、JA 特別栽培米の取り組みや、新肥料での試験栽培等チャレンジの年でした。数字としての顕著な成果は表れませんでした。生産データを蓄積することはでき、今後、暗渠排水工事の完工をプラス要因として、最適な栽培を目指す所存です。

また、重点方針の「儲ける農業の実践」も、ホームページのリニューアルによる PR どころで、「売るために作る」まで踏み込めなかったことは反省すべきことです。



(別表) 17年産穀類生産実績

[水稻]

品 種	作付面積	生産量		反収(俵/反)			
	m ² 反	kg	俵(60kg)	17年産	16年産	15年産	
コシヒカリ	10,717 10.7反	5,516	91.9	8.58	6.73	7.04	
キヌヒカリ	11,113 11.1反	6,360	106.0	9.54	8.18	7.38	
日 本 晴	5月植	72,172 72.2反	44,010	733.5	10.16	8.73	-
	6月植	36,042 36.0反	16,800	280.0	7.77	8.60	-
	計	108,214 108.2反	60,810	1013.5	9.37	8.69	8.91
ヒノヒカリ	14,982 15.0反	7,620	127.0	8.48	8.17	8.37	
ゆめおうみ	41,489 41.5反	24,104	401.7	9.68	9.71	10.06	
レーク65号	2,117 2.1反	1,010	16.8	7.95	7.32	-	
うるち 計	188,632 188.6反	105,420	1757.0	9.31	8.41	8.62	
羽二重もち	52,915 52.9反	28,945	482.4	9.12	8.42	8.42	
合 計	241,547 241.5反	134,365	2239.4	9.27	8.41	8.59	

中米	屑米	合計
俵/10a	俵/10a	俵/10a
0.35	0.49	0.84
0.40	0.45	0.85
0.23	0.17	0.40
0.42	0.49	0.91
0.29	0.27	0.56
0.60	0.70	1.30
0.28	0.32	0.60
0.35	0.49	0.84
0.32	0.34	0.66
0.25	0.20	0.45
0.31	0.31	0.62

[小麦]

品 種	作付面積	等級	生産量		反収(俵/反)		
	m ² 反		kg	俵(60kg)	17年産	16年産	15年産
農林61号	152,470 152.5反	1等	26,903	448.4	2.94	3.24	-
		2等	1,315	21.9	0.14	0.12	-
		合計	28,218	470.3	3.08	3.36	3.65

[大豆]

品 種	作付面積	用途	生産量		反収(俵/反)		
	m ² 反		kg	俵(60kg)	17年産	16年産	15年産
ふくゆたか	61,092 61.1反	種子	9,840	164.0	2.68	3.16	-
	42,638 42.6反	一般	6,525	108.8	2.55	2.62	-
	103,730 103.7反	合計	16,365	272.8	2.63	2.79	2.49

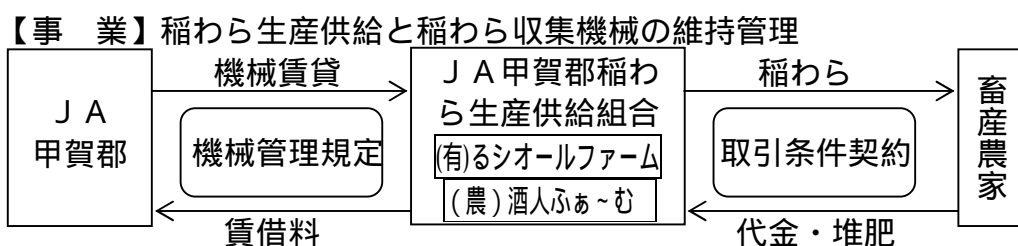
企画開発部

[企画・広報]

こだわり農産物の生産と耕畜連携による取り組みで、堆肥搬送や散布作業時には、異臭で近隣の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、化学肥料を抑えかつ地力を維持・増進するためには堆肥は必要不可欠であります。地元周辺環境に最大限配慮いたしますので、安心安全な農作物づくりと、資源循環型農業の確立のため、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【主に取り組んだ内容】

「稲わら生産供給組合」による耕畜連携・資源循環型農業スタート



【目的】 米価下落による売上減少の補填
耕畜連携・資源循環型農業の推進
稲わらの有効利用と堆肥の安定確保
将来のアグリネットワーク形成への足掛り

【役員】 組合長 徳地 好雄 (有)シオールファーム代表取締役
会計 西村 伊久次 (農) 酒人ふぁ~む 副部長
監査役 林 勝久 (農) 酒人ふぁ~む 監事
事務局 JA 甲賀郡

【事業年度】 毎期 4月1日～3月31日

【供給先】 岡崎牧場(日野町) 河上牧場(信楽町)

【機械】 JA 所有機械の借用方式
ジャイロレーキ(集草機)
ヘーベラー(梱包機)～生産振興総合対策(国庫補助事業)

ホームページのリニューアルオープン～アドレスが変わりました！

<http://www.sakoudo.jp/>

(株)KCGキャリア(京都市)と業務提携し、ホームページの更新をおこないました。米の予約注文も開始し、業務拡大への足掛かりと位置づけております。視察との相乗効果もあり、アクセス件数は上昇しましたが、直販体制を整えつつある現状から、ネット販売は今後の課題です。

平成17年度 稲わら生産供給収支実績

(17.4.1~17.12.31)

【収入の部】

法人名	月	内 訳	金 額
(農)酒人ふぁ～む	9月	1,320個	554,400円
	11月	2,766個	1,161,720円
	12月	302個	126,840円
	その他	1,713個	539,595円
	小計	6,101個	2,382,555円
(有)るシオールファーム	9月	668個	280,560円
	11月	1,050個	441,000円
	12月	409個	171,780円
	小計	2,127個	893,340円
合 計		8,228個	3,275,895円

【支出の部】

科 目	内 訳	金 額
資材費(トワイン)	結束ひも 13個	112,455円
資材費(ラップ)		35,000円
農機修理費		10,280円
レーキ利用料		61,016円
ペーラ利用料		260,361円
その他	角印、ゴム印、茶、伝票	10,494円
合 計		489,606円

費用負担(生産実績による按分)

(農)酒人ふぁ～む	$489,606 \text{円} \div 8,228 \text{個} \times 6,101 \text{個}$	363,039円
(有)るシオールファーム	$489,606 \text{円} \div 8,228 \text{個} \times 2,127 \text{個}$	126,567円
合 計		489,606円

【精算金額】

(農)酒人ふぁ～む	$2,382,555 - 363,039 =$	2,019,516円
(有)るシオールファーム	$893,340 - 126,567 =$	766,773円

[特産振興]

甲賀市水口地域水田農業ビジョンに基づき、地域特例作物（町指定野菜）の生産に、すこやか・なごやか両グループ総力を挙げて取り組みました。露地ものは、初夏採り野菜を17年度の目玉にと、白菜・キャベツの栽培面積を拡充しました。初期生育は旺盛で、今年とは、喜んだのも束の間、収穫前になって生理障害（あんこう）が発生、全滅といった惨状にグループ員一同、ただ唾然とするばかりでした。めげずに頑張った秋冬野菜では、白菜に根こぶが発生したものの、ブロッコリーは上々で、相場も持ち、少し救われた結果となりました。ハウス野菜は、ほぼ前年並で推移しました。

17年産野菜栽培形態別販売実績

単位：円

露 地		ハ ウ ス	
品 目	販 売 高	品 目	販 売 高
白 菜	1,008,863	小 松 菜	1,390,789
キ ャ ベ ツ	-	ほ う れ ん 草	353,408
ブ ロ ッ コ リ ー	2,811,008	サ ニ ー レ タ ス	665,440
え び す 南 瓜	1,020,019	ト マ ト	462,587
切 花 (小 菊)	127,720	み ず 菜	321,801
メ ロ ン	7,200	壬 生 菜	3,850
		ジャンボニンニク	60,880
		黒大豆・普通大豆	58,740
え び す 南 瓜 苗	32,640	さ つ ま 芋	53,925
小 計	5,007,450	小 計	3,371,420
合 計		8,378,870	

17年産 野菜品目別・市場別販売実績

生産品目	大津京都市場出荷		花野果市JA直売所		水口地方卸売市場		イベント・直売		合 計	
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、個)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個)	販売高 (千円)	数量 (-)	販売高 (千円)
小松菜	18,725	1,248	1,494	133	180	10			20,399	1,391
ほうれん草	3,600	276	759	73	50	4			4,409	353
白菜	1,607	965	301	44						1,009
壬生菜			28	2	40	2			68	4
ブロッコリー	1,839	2,602	1,271	136			730	73		2,811
サニーレタス	552	604	606	52	155	9				665
トマト	127	161	1,077	251	42	51				463
みず菜	3,085	283	321	34	70	5			3,476	322
えびす南瓜	1,397	998	144	19			24	2		1,020
ジャンボニンニク			190	61					190	61
メロン			27	7					27	7
切花			399	54			493	74	892	128
大豆等			212	59					212	59
さつま芋			151	23	295 kg	31				54
南瓜苗							544	33		33
合 計	30,932	7,137	6,980	948	832	111	1,791	183		8,379

機械施設部

平成17年度は、拠点施設周辺の環境整備に注力してまいりました。

乾燥調整施設棟に新たに籾殻搬出庫を併設いたしました。これまでは、オープンでありましたが、本施設完成で、完全とは申せませんが粉塵量の抑制に効果を発揮しました。また、トラックによる搬出作業も楽になり、作業効率面での結果も上々です。今後とも、防塵については研究し、その都度対策を講じてまいる所存であります。

また、洗機（洗車）場をハウス横に設けました。大型機械でもゆったり洗機できるスペースが確保され、洗機作業が容易になりました。圃場作業から泥付きのまま直接格納庫行きが多かったこれまでに比べ、土足での格納がなくなり機械はもちろん格納庫の環境は数段良くなりました。

機械オペレーターも、洗機をして初めて作業が終了するという意識も芽生え、大切に扱ってくれています。費用はかかりましたが良い投資でありました。

一方、これらの工事を業者に完全委託するのではなく、若手オペレーターにも協力頂き、土木作業や大作業では、ハイレベルな土木建設技術を有する者もあり、改めて字内は「人材の宝庫」であることを知らされました。

ただ、この人材をフルに活用できていないことは反省すべきことです。大型汎用コンバインによる大豆の収穫などは、高い刈取り技術を要求されることからベテランオペレーターに頼らざるを得ない状況で、若手の育成が遅れています。機械オペだけでなく、整備の技術も全体的には見劣りします。機械施設がほぼ完備した今、人材の育成が当面の課題です。



取得した施設・備品の主なもの

農用地利用集積準備金の取り崩しによる取得

（単位：円）

取得資産名	取得額	圧縮額
（集積準備金取崩し）		3,347,897
洗機場（川新興業）	2,217,900	(2,217,899)
ライスセンター籾殻搬出庫（川新興業）	500,000	(499,999)
上水道工事（滋賀設備）	630,000	(629,999)
乾燥施設・格納庫植栽工事（西村造園土木）	168,000	
合 計	3,515,900	3,347,897

総務部

昨年度に続き、視察と取材のラッシュに追われた1年でした。事業計画のなかで実践できたのは、労災の見直しにより作業時の安全補償が拡充されたことで、「儲ける農業」に向けた販売連動型生産体制やコストを意識した経営体質への改善が図れなかったことは反省点です。

【主に取り組んだ内容】

来視者過去最高記録を更新～累計200団体4,000人突破！（別紙参照）

来視	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
先数	8	17	9	22	46	104
人数	247	403	267	408	918	1,760

これまでに延206団体、4,003人もの方が視察に来村されました。

取材ラッシュ～知名度は全国版！

メディア	月日	内容
農業共済新聞	2 / 2	「みんなが輝く農業～やったるで～」
J A「kouka」	3月号 132	食育の視点から農業を知ろう！
日本農業新聞	3 / 10	総会で新3ヵ年計画承認される
日本農業新聞	5 / 23	「農を語る」世代別作業で効率化
全国農業新聞	5 / 27	参議院農林水産委員会参考人招致
日本農業新聞	5 / 28	豆類共励会 大豆集団の部農水大臣賞受賞
日本農業新聞	6 / 21	大豆受賞 集落一農場方式を实践
日本農業新聞	6 / 22	第33回全国豆類経営改善共励会授賞式
日本農業新聞	6 / 24	小麦後の水稻を倍増
日本農業新聞	6 / 25	全国豆類経営改善共励会授賞式（滋賀版）
農業共済新聞	6 / 29	耕畜連携し地力増進 高性能機械で省力化
日本農業新聞	7 / 3	J A 京都中央会研修で実践事例紹介
日本農業新聞	7 / 9	“集落営農”を全国に あすラジオ放送
日本農業新聞	9 / 2	自民党意見広告企画集落営農の組織化支援
日本農業新聞	9 / 30	耕畜連携で循環型農業
日本農業新聞	10 / 12	日本農林漁業振興会会長賞受賞
日本農業新聞	11 / 9	食・農・環フォーラム事例報告
日本農業新聞	11 / 15	種子大豆生産定着「フクユタカ」契約栽培
京都新聞	11 / 28	「生産の足もと」農地維持へ効率図る
日本農業新聞	12 / 1	緊急座談会「動き出す経営安定対策」
日本農業新聞	12 / 16	加西市農業講演会で組合長が事例紹介
日本農業新聞	12 / 22	“事務所電飾し温もり”イルミネーション
TBSラジオ	7 / 10	グッドモーニング・ジャパン放送
CNインターボイス	取材 12/1-3	「スタート！日本農業の新たな挑戦」

労災加入で補償拡充

6月に社会保険労務士の多賀貴志先生と契約し、現行の農業労災補償を拡充いたしました。登録オペレーターや役員だけでなく、協力グループを含む全構成員に補償対象を拡大し、代表理事も特別加入で全員すべての労働災害をカバーすることができました。



会計実地検査完了

4月13日に農林水産検査第1課第3班調査官による、国庫補助の地域農業構造改革モデル事業（大型機械、格納庫・事務所棟建設）の会計検査と実地検査を受検いたしました。県、市、JAと関係機関のお力添えにより、無事終わることができました。ご指導とご協力ありがとうございました。

(株)全国農村映画協会制作ビデオの垣戸配布

昨年度、撮影収録されましたビデオが完成しました。わが集落営農の事例が、農林水産省と全国JAグループの企画により制作されたものであり、全国の集落営農を目指すモデルとして、行政・JAが活用されています。

これを当組合が一括購入し、各組に無償進呈いたしました。視察受け入れ時に、このビデオを上映しますと、非常に好評です。

永久保存版として、活用・保管いただきますと幸いです。



【平成17年度来視状況】

月 日	来 視 先	内 容	人 数
1 / 1 1	甲賀地域振興局田園整備課 主幹	農村集落保全対策検討調査	1
1 / 2 0	福井県丹生農林総合事務所ほか	集落営農組織の高度化の取組	4 0
1 / 2 1	農水省経営局 須賀田局長	現地調査	2 2
1 / 2 6	大分県宇佐両院地方振興局	先進事例視察	2
1 / 2 8	佐賀県神埼郡 姉七福営農組合	先進事例視察	1 2
2 / 2	岐阜県安八郡農業改良推進協議会	先進事例視察	7
2 / 9	自民党総合農政調査会野呂田会長	「食料・農業・農村基本計画」視察	3 6
2 / 1 3	竜王町西川農業生産組合	先進事例視察	2 0
2 / 1 6	三重県多気郡農協稲作部会	先進事例視察	2 4
	石川県かほく市農林水産課ほか	先進事例視察	1 2
2 / 1 7	愛媛県永長基盤整備推進委員会	先進事例視察	1 8
	岡山県三須地区ほ場整備協議会	先進事例視察	9
2 / 1 8	あいち三河農協額田農作業受託部会	先進事例視察	1 0
2 / 1 9	大津市伊香立北部農業生産組合	先進事例視察	2 1
2 / 2 0	亀岡市保津町農業振興協議会	先進事例視察	2 6
2 / 2 2	湖北町山本集落農業者	先進事例視察	1 2
	広島県三次地域営農集団連絡協議会	先進事例視察	1 5
2 / 2 8	駒ヶ根市営農センター	先進事例視察	4 1
3 / 3	滋賀県立農業大学校	作物専攻生の校外研修	1 0
3 / 5	彦根市肥田町農業対策委員会	先進事例視察	1 9
	京都府京丹後市奥大野農場づくり調整会	先進事例視察	1 1
	(株)K C G キャリア	ホームページ制作打ち合せ	2
3 / 6	福知山市下六人部地区推進協議会	先進事例視察	6 8
	J A 兵庫六甲神戸西受託部会	先進事例視察	1 6
3 / 1 0	岐阜県安八郡輪之内東部土地改良組合	先進事例視察	1 5
3 / 1 2	鯖江市集落営農代表者ほか	先進事例視察	4 6
3 / 1 4	鹿児島県農業改良普及センター	先進事例視察	1 4
3 / 1 6	J A 山口宇部営農センター	先進事例視察	5
3 / 2 0	丹波市営農組合くりすの	先進事例視察	1 0
3 / 2 6	長野県 J A 上伊那郡宮田支所ほか	先進事例視察	3 0

月 日	来 視 先	内 容	人 数
3 / 2 8	長野県池田町営農支援センター	先進事例視察	6
4 / 2	(株)K C G キャリア	ホームページ制作打ち合せ	2
4 / 9	滋賀県農政連盟瀬田支部	先進事例視察	1 7
4 / 1 1	長野県飯山市柳原営農組合	先進事例視察	2 0
4 / 1 4	近畿農政局 進藤局長	現地視察、意見交換会	1 1
5 / 1 3	大阪大学大学院 石井教授ほか	食糧・環境問題における数理的手法研究	5
5 / 2 7	甲良町区長・農業組合長ほか	先進事例視察	4 5
5 / 2 8	多賀社労士、県農業会議西堀係長	農業労災加入打ち合せ	2
6 / 3	近畿農政局構造改革 荒木課長	現地視察	5
6 / 5	J A 福井市青壮年部支部長	先進事例視察	2 3
6 / 2 0	J A 青森県中央会	先進事例視察	2
6 / 2 3	T B S ラジオ 毛利 道子	「モーニングジャパン」取材	1
	農林水産省農村振興局農地整備課	現地視察	5
6 / 2 4	京都府八木町山室生産組合	先進事例視察	2 2
6 / 2 5	伊吹農業生産組合	先進事例視察	9
6 / 2 6	富山県堀内営農クラブ	先進事例視察	4
6 / 2 7	熊本県南関町議会	先進事例視察	6
7 / 1 1	三重県いなべ市議会	先進事例視察	1 7
7 / 1 4	J A 山口宇部阿知須支所	先進事例視察	2 0
	宮城県角田市議会	先進事例視察	9
7 / 1 6	(株)K C G キャリア	ホームページ制作打ち合せ	2
7 / 1 8	杣中営農組合	野菜づくりについて	1 4
	長野県飯島地区営農組合	先進事例視察	1 5
7 / 2 0	J A あいち豊田営農受託部会	先進事例視察	3 5
7 / 2 1	石川県志賀町土地改良区	先進事例視察	3 1
	J A 奈良県統括織田支店	8 / 6 事前視察	5
7 / 2 2	佐賀県 J A 佐城、川副町生産組合	先進事例視察	1 0
7 / 2 8	三重県安芸郡河芸町農業関係区長会	先進事例視察	1 8
7 / 2 9	福井県二州管内認定農業者	先進事例視察	5 5
7 / 3 1	甲賀町滝営農組合	先進事例視察	5
8 / 3	石川県経営構造対策事業推進委員会	先進事例視察	2 1
8 / 4	近畿農政局構造改善 今城課長	現地視察	3

月 日	来 視 先	内 容	人 数
8 / 6	J A 奈良県統括織田支店管内集落代表	先進事例視察	25
8 / 7	J A 福井市中藤島青壮年部	先進事例視察	20
8 / 8	近畿農政局滋賀農政事務所 柏原所長	現地視察	2
8 / 9	岐阜県安八郡神戸町農事改良組合	先進事例視察	30
8 / 24	日本農業新聞	取材	2
8 / 25	J A 岩手県中央会、県農林水産部	先進事例視察	4
9 / 13	農林水産祭三賞候補調査	現地圃場調査	5
9 / 29	熊本県益城町議会	先進事例視察	7
	(財)福岡県農業振興推進機構	先進事例視察	9
	農林水産省大臣官房情報課 齊藤課長	現地視察	6
9 / 30	栃木県下都賀農業振興事務所 主査	先進事例視察	1
10 / 1	兵庫県加西農業改良普及センター	先進事例視察	8
10 / 3	石川県 J A 加賀柴山支店稲作部会	先進事例視察	12
10 / 4	千葉県佐原市議会「新政会」	先進事例視察	5
10 / 6	栃木市 J A しもつけ役職員	先進事例視察	61
10 / 19	岐阜県中津市東濃東部農業農村整備推進協議会	先進事例視察	30
	香川県さぬき地区農業委員会連合会	先進事例視察	17
10 / 24	宮崎市小林市きりしま農業推進機構	先進事例視察	42
10 / 27	愛媛県小松町土地改良協議会	先進事例視察	20
10 / 28	愛媛県西条市 J A 周桑農振協	先進事例視察	20
11 / 5	石川県白山市蝶屋土地利用組合	先進事例視察	15
11 / 8	北海道岩見沢市空知農民連合	先進事例視察	45
11 / 9	金沢営農協議会	先進事例視察	16
	石川県能美小松農業改良推進協議会	先進事例視察	17
11 / 11	能登川町伊庭農事改良組合	先進事例視察	37
11 / 12	福井県吉田生産組合設立準備委員会	先進事例視察	20
11 / 14	四日市市農業委員会	先進事例視察（甲賀市役所）	39
11 / 14	宮崎県小林市議会	先進事例視察（甲賀市役所）	6
11 / 15	岩手県江刺市議会	先進事例視察（甲賀市役所）	6
11 / 16	長野県伊那市農業委員	先進事例視察（甲賀市役所）	26
11 / 16	三重県 J A いがほくぶ稲作部会	先進事例視察	50
11 / 15・19	京都新聞社滋賀本社 石田記者	取材	1

月 日	来 視 先	内 容	人 数
1 1 / 2 6	オペレーションズリサーチ学会	研究(大阪大学大学院石井教授ほか)	5
1 1 / 2 7	森寺営農組合準備委員会	先進事例視察	1 0
1 1 / 2 9	福井県経営構造対策事業実施地区	先進事例視察	1 9
	広島県尾三地域集落法人連絡協議会	先進事例視察	3 0
1 1 / 3 0	青森県 J A 弘前地区連絡協議会	先進事例視察 (J A 甲賀郡)	1 9
1 1 / 3 0	舞鶴市農業委員会	先進事例視察	2 6
1 2 / 1	参議院農林水産委員会調査室	環境農業政策の実情調査	6
1 2 / 2・3	(株) C N インターボイス	全国担い手育成総合支援協議会ビデオ制作	3
1 2 / 5	衆議院調査局農林水産調査室	現地視察	4
1 2 / 1 4	宮崎県北諸県農業改良普及センター	先進事例視察	1 3
1 2 / 2 0	香川県中讃農業改良普及センター	先進事例視察	1
1 2 / 2 1	神戸大学経営学部管理会計学研究室	集落営農実態調査	1
合計	1 0 4 先 (前年度比 + 5 8 先)	1 , 7 6 0 人 (前年度比 + 8 4 2 人)	

【平成 1 7 年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
1 / 1 4	福知山市	京都府農業会議、J A 京都中央会	農業法人の経営実践と課題
1 / 2 2	近江八幡市	県、農業会議、J A 中央会、農業法人協会	県集落営農法人化セミナー
1 / 2 4	東京都 J A ビル	全国農業協同組合中央会	地域農業構造改革推進全国大会
1 / 2 7	大阪市	農林公庫近畿支店	近畿地区農業経営者交流会
1 / 3 0	栗東市	湖南農業管理センター	湖南地域農業者大会
2 / 8	神戸市 (兵庫県農業会館)	兵庫県農業協同組合中央会	担い手育成農用地利用調整対策研修会
2 / 2 3	竜王町	竜王町稲作経営者研究会	第 1 4 回定期総会
2 / 2 5	多賀町	J A 東びわこ多賀営農センター	集落営農組織強化研修会
3 / 1	宮崎県小林市	小林営農センター	細野営農組合設立総会
3 / 1 0	栃木市河合町	J A しもつけ	集落型経営体推進支援研修会
3 / 1 7	大分県大分市	大分県、農業会議、J A 大分中央会	集落営農リーダー養成講座
3 / 1 9	湖南省	農政連盟甲西支部	第 3 7 回通常総会
5 / 1 7	参議院	農林水産委員会	参考人招致意見陳述
6 / 2 6	三重県いなべ市	いなべ地域営農センター	「集落組織づくり」講演会
6 / 3 0	佐賀県佐賀市	佐城農業改良委員会	水田農業担い手づくり研修大会

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
7 / 9	蒲生町宮井	宮井生産組合	勉強会
7 / 13	東京生活技術研修館	農林水産研修所	協同農業普及事業研修
7 / 20	鹿児島県鹿児島市	鹿児島県	「新 農村振興運動」むらづくり大学
7 / 22	杉中	杉中農事改良組合	集落営農推進会議
7 / 28	大分県宇佐市	大分県集落営農推進宇佐支部	集落営農推進セミナー
8 / 1	埼玉県川本町	埼玉県担い手育成総合支援協議会	土地利用型農業研修会
8 / 5	京都市	近畿農政局	地域水田農業ビジョン実現に向けた講演会
8 / 6	大津市、農業教育情報センター	県担い手育成総合支援協議会	集落営農・法人化講座
8 / 30	島根県出雲市	県経営構造対策推進協議会	地域マネージャー等研修会
10 / 7	福岡市	(財)福岡県農業振興推進機構	農業法人化指導者養成研修会
10 / 25	能登川町	東近江地域農業委員会連絡協議会	東近江地域農業委員研修会
11 / 8	東京都ルポール麹町	食料・農林漁業・環境フォーラム	討論会
11 / 10	山口県宇部市	J A 山口宇部	第2回米生産者大会
11 / 13	守山市山賀町	守山市山賀農業組合	担い手対策勉強会
11 / 16	徳島市	徳島県水田農業推進協議会	水田農業構造改革対策講演会
11 / 22	東京日本プレスセンター	日本農業新聞	緊急座談会
11 / 27	京都府八木町	八木町担い手育成総合支援協議会	講演
12 / 10	京都市、京大会館	農業会計研究会	シンポジウム
	守山市今浜町	今浜農業組合	勉強会
12 / 11	兵庫県加西市	加西農業改良普及センター	講演会
	兵庫県丹波市	J A 丹波ひかみ	第1回農業振興大会
12 / 22	甲南町忍の里プララ	甲賀市農業委員会	第6回総会

【平成17年度表彰受賞】

月 日	内 容	出 席 者	会 場
6 / 21	16年産大豆集団の部農林水産大臣賞	谷口、東浦、福西	東京J Aビル
11 / 23	農林水産祭農林漁業振興協会長賞	谷口、小林、金松、福西、西村、伴	明治神宮

【平成17年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1 / 1 5	第5回水口町農業振興大会	谷口、福西、西村、 山田(すG) 伴・林(なG)	環境こだわり農産物
1 / 1 9	特定農業法人交流セミナー	東浦	交流会
1 / 2 0	環境こだわり水稻生産者研修会	伴	減農薬栽培技術
1 / 2 4	農業法人現地交流会(湖北町)	東浦	セミナー、情報交換
1 / 2 7	岐阜県 (有)サンフレッシュ海津	西村	サバイブ水田農業
1 / 2 9	甲賀地域農業集落代表者のつどい	谷口、西村、 林(す G)林、福西(なG)	講演「おけら牧場、生き ものたちとの日々」
2 / 1 4	J A 甲賀郡大規模稲作経営者部会総会	伴	売れる米づくり
2 / 1 8	甲賀農業管理センター先進地研修	金松	(株)夢ファームせんだ
2 / 2 3	コミュニティビジネスモデル事業発表会	林、伴、福西(なG)	里山パン工房事業ほか
3 / 9	集落営農先進地視察研修	東浦	加西農業改良普及センター
3 / 1 0	甲賀地域集落営農リーダー研修	東浦	小佐治、米ブラザ、志賀町
4 / 2 1	水口町良質米研究会	東浦	総会
6 / 8	あぜみちモーニングスクール	東浦	稲作現地研修
6 / 1 5	たまねぎ産地視察研修会	金松、(すG)林、山田	(株)淡路農産食品と圃場
7 / 2 0	小菊の視察研修会	(すG)山田他3名	東近江市杠葉尾圃場
8 / 2	ストック栽培技術研修会	金松、(すG)山田	J A 甲賀郡 青果市場
8 / 2	トマト栽培研修会	金松、(なG)谷口、山崎	水口営農センター
8 / 5	滋賀県農業法人協会通常総会	東浦	大津市アル・マーレ
8 / 9	新たな経営安定対策と担い手育成確保に向けての研修会	谷口、東浦、金松、伴	甲賀市役所
8 / 1 9	認定農業者制度に関する研修会	東浦	J A 甲賀郡
8 / 2 5	水口町良質米研究会視察研修会	伴	志賀町圃場
8 / 2 9	しがの農業・農村政策提案会	東浦	甲賀県事務所
1 0 / 2 6	農林漁業金融公庫関西ブロック交流会	福西	ヒルトン大阪
1 1 / 1	売れる米づくり推進大会	福西	栗東芸術文化会館さきら
1 2 / 1 3	水口町良質米研究会	東浦	セントピードグラス
1 2 / 1 4	担い手交流会	東浦	経営所得安定対策
1 2 / 2 0	甲賀市水田農業推進協議会総会	東浦	18年産米生産数量配分
1 2 / 2 6	農薬の安全使用再確認研修会	金松	J A 甲賀郡

貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

2005年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	42,617,327	【流動負債】	15,194,561
現金・預金	17,159,929	短期借入金	3,000,000
売掛金	6,547,431	未払金	12,119,561
農産物	166,288	預り金	5,000
原材料	104,620	未払法人税等	70,000
棚卸品	1,096,348	【固定負債】	76,908,419
未収金	9,198,193	長期借入金	76,908,419
仮払金	8,344,518	負債の部合計	92,102,980
【固定資産】	75,494,398	資本の部	
【有形固定資産】	75,444,398	【資本金】	4,480,000
建築物	42,943,295	出資金	4,480,000
構築物	1,753,502	【利益剰余金】	21,528,745
機械装置	15,338,540	利益準備金	3,360,700
農機具	30,884,005	当期末処分剰余金	18,168,045
工具器具備品	672,000	(うち当期剰余金)	18,168,045
減価償却累計額	16,146,944		
【投資その他の資産】	50,000	資本の部合計	26,008,745
外部出資金	50,000	負債・資本合計	118,111,725
資産の部合計	118,111,725		

損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2005年 1月 1日 至 2005年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販 売 高	49,599,443	
奨 励 助 成 金	12,570,418	
販 売 高 合 計		62,169,861
【事業費用】		
【生産原価】		
当 期 農 産 物 原 価	42,627,350	
合 計	42,627,350	
期 末 農 産 物 棚 卸 高	270,908	
事 業 原 価		42,356,442
事 業 総 利 益		19,813,419
【事業管理費】		
事 業 管 理 費 合 計		3,394,539
事 業 利 益		16,418,880
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受 取 利 息	161	
受 取 配 当 金	350	
雑 収 入	2,195,612	
事 業 外 収 益 合 計		2,196,123
【事業外費用】		
支 払 利 息	1,190,347	
雑 損 失	225,409	
事 業 外 費 用 合 計		1,415,756
経 常 利 益		17,199,247
特別損益の部		
【特別利益】		
集積準備金取崩益	4,444,795	
その他特別利益	417,100	
特 別 利 益 合 計		4,861,895
【特別損失】		
固 定 資 産 圧 縮 損	3,347,897	
特 別 損 失 合 計		3,347,897
税引前当期純利益		18,713,245
法 人 税 等		545,200
当 期 剰 余 金		18,168,045
当 期 未 処 分 剰 余 金		18,168,045

事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2005年 1月 1日 至 2005年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	4,597,741	
肥 料 費	5,689,657	
農 薬 費	1,905,648	
諸 材 高	967,543	
合 計	13,160,589	
材 料 費 合 計		13,160,589
【労務費】		
農 業 労 災 費	187,451	
労 務 費 合 計		187,451
【その他生産費】		
農 具 費	326,219	
作 業 委 託 料	1,584,893	
土 地 改 良 水 利 費	2,812,860	
動 力 光 熱 費	1,671,020	
修 繕 費	3,993,671	
荷 造 運 賃 発 送 費	1,522,840	
租 税 公 課	12,000	
機 械 賃 借 料	694,299	
機 械 リ ー ス 料	1,904,476	
年 貢 料 (借 地 料)	5,928,176	
生 産 調 整 拠 出 金	1,505,863	
農 業 共 済 費	920,725	
雑 費	296,412	
減 価 償 却 費	6,105,856	
そ の 他 生 産 費 合 計		29,279,310
当 期 事 業 原 価		42,627,350
合 計		42,627,350
当 期 農 産 物 原 価		42,627,350

事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2005年 1月 1日 至 2005年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
福 利 厚 生 費	113,737
教 育 ・ 研 修 費	64,739
旅 費 交 通 費	470,570
通 信 費	152,642
交 際 費	193,767
諸 会 費	231,920
水 道 光 熱 費	23,086
賃 借 料	40,500
事 務 用 消 耗 品 費	457,954
修 繕 費	31,812
租 税 公 課 費	497,390
雑 費	628,172
税 務 顧 問 料	488,250
事 業 管 理 費 合 計	3,394,539

剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	18,168,045
合 計	18,168,045
これを次のとおり処分する	
利益準備金	1,119,300
従事分量配当金	17,048,745
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

2006年 2月26日

農事組合法人酒人ふぁーむ

代 表 理 事	谷 口 榮 治
理 事	東 浦 常 夫
理 事	小 林 伊 佐 治
理 事	金 松 泰 弘
理 事	福 西 義 幸
理 事	伴 慎 也
理 事	西 村 清 秋

附属明細書

平成17年度予算実績対比表

自2005年1月1日～至2005年12月31日

(単位千円)

勘定科目	平成17年度予算額		実績額		差異金額	
	金額	金額/反	金額	金額/反	金額	金額/反
[耕作面積]	換算382.7反		換算385.0反			
[事業収益]						
[販売高]						
販売高	61,743	160	49,598	129	-12,145	-32
奨励・助成金	10,521	27	12,570	33	2,049	5
販売高合計	72,264	188	62,168	161	-10,096	-26
[事業費用]						
[資材費]						
[生]種苗費	5,181	13	4,598	12	-583	-2
[生]肥料費	7,016	18	5,418	14	-1,598	-4
[生]農薬費	2,496	6	1,905	5	-591	-2
[生]諸材料費	595	2	967	3	372	1
生産資材費合計	15,288	40	12,888	33	-2,400	-6
[労務費]						
[生]農業労災費	450	1	187	0	-263	-1
労務費合計	450	1	187	0	-263	-1
[その他生産費]						
[生]動力光熱費	1,208	3	1,671	4	463	1
[生]修繕費	5,005	13	4,319	11	-686	-2
[生]機械賃借料	500	1	694	2	194	1
[生]年貢料(借地料)	5,869	15	5,928	15	59	0
[生]作業委託料	2,736	7	1,584	4	-1,152	-3
[生]土地改良水利費	2,877	7	2,813	7	-64	0
[生]農業共済費	1,162	3	921	2	-241	-1
[生]生調拠出金	1,828	5	1,506	4	-322	-1
[生]機械リース料	2,216	6	1,904	5	-312	-1
[生]荷造運賃送料	2,250	6	1,522	4	-728	-2
[生]雑費	255	1	310	1	55	0
[生]減価償却費	6,052	16	6,107	16	55	0
その他生産費合計	31,958	83	29,279	76	-2,679	-7
事業費用合計	47,696	124	42,354	110	-5,342	-14
[事業総利益]	24,568	64	19,814	51	-4,754	-12
[生]労務費(従事分量配当)	15,855	41	17,049	44	1,194	3
[改め事業総利益]	8,713	23	2,765	7	-5,948	-15
[事業管理費]						
[管]福利厚生費	200		114		-86	
[管]旅費交通費	600		470		-130	
[管]通信費	200		152		-48	
[管]交際費	300		194		-106	
[管]支払手数料	50		0		-50	
[管]諸会費	300		232		-68	
[管]水道光熱費	50		23		-27	
[管]賃借料	40		41		1	
[管]教育・研修費	50		65		15	
[管]事務用消耗品費	500		458		-42	
[管]修繕費	50		32		-18	
[管]租税公課	400		497		97	
[管]雑費	1,000		629		-371	
[管]税務顧問料	500		488		-12	
[管]農用地利用集積準備金	3,760		0		-3,760	
事業管理費合計	8,000	21	3,395	9	-4,605	-12
[事業利益]	713	2	-630	-2	-1,343	-3
[事業外損益]	0		780	2	780	2
[経常利益]	713	2	150	0	-563	-1

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

平成17年度事業実績明細表

自 2005/1/1 ~ 至 2005/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	共通	合計
[耕作面積]	241.5反		152.5反		103.7反		25.5反		3.0反				
[事業収益]													
事業高	28,037	116	3,214	21	6,670	64	5,007	196	3,371	1,124	3,299	-3,164	46,434
その他売上高	2,218	9	166	1	346	3	259	10	175	58			3,164
奨励助成金	1,479	6	4,720	31	4,736	46	1,635	64	0	0	0		12,570
売上高合計	31,734	131	8,100	53	11,752	113	6,901	271	3,546	1,182	3,299	-3,164	62,168
事業原価													
[資材費]													
[生]種苗費	3,333	14	299	2	143	1	1,949	76	192	64	1,846	-3,164	4,598
[生]肥料費	2,888	12	1,440	9	354	3	669	26	67	22			5,418
[生]農薬費	1,191	5	91	1	325	3	261	10	37	12			1,905
[生]諸材料費	501	2	70	0	48	0	318	12	29	10	1		967
資材費合計	7,913	33	1,900	12	870	8	3,197	125	325	108	1,847	-3,164	12,888
[労務費]													
[生]労災保険費	82	0	52	0	35	0	17	1	1	0			187
労務費合計	82	0	52	0	35	0	17	1	1	0	0		187
[経費]													
[生]動力光熱費	732	3	461	3	314	3	154	6	10	3			1,671
[生]農具修繕費	1,857	8	1,169	8	796	8	444	17	53	18			4,319
[生]機械賃借料	191	1	93	1	64	1	344	13	2	1		(注1)	694
[生]年貢料(借地料)	3,623	15	874	8	778	8	191	15	45	15		417	5,928
[生]作業委託料	24	0	988	6	569	5	3	0	0	0		(注2)	1,584
[生]農業水利費	1,739	7	419	4	373	4	91	7	22	7		169	2,813
[生]農業共済費	331	1	245	2	187	2	65	3	93	31	0		921
[生]生調拠出金	781	3	0	0	725	7	0	0	0	0			1,506
[生]リース料	817	3		0		0		0		0	1,087		1,904
[生]荷造発送費		0		0		0	887	35	635	212			1,522
[生]減価償却費	2,803	12	1,771	12	1,203	12	293	11	37	12			6,107
[生]雑費	142	1	90	1	61	1	15	1	2	1			310
[生]共通費	386	2	93	1	83	1	20	2	4	1	0	-586	0
経費合計	13,426	56	6,203	41	5,153	50	2,507	98	903	301	1,087	0	29,279
事業原価合計	21,421	89	8,155	53	6,058	58	5,721	224	1,229	410	2,934	-3,164	42,354
事業総利益	10,313	43	-55	-0	5,694	55	1,180	46	2,317	772	365	0	19,814
[生]労務費	6,737	28	1,540	10	1,380	13	4,467	175	2,925	975			17,049
改め事業総利益	3,576	15	-1,595	-10	4,314	42	-3,287	-129	-608	-203	365	0	2,765
[事業管理費]	1,558	6	985	6	669	6	163	6	20	7	0		3,395
事業利益	2,018	8	-2,580	-17	3,645	35	-3,450	-135	-628	-209	365	0	-630
[事業外損益]	358	1	226	1	154	1	37	1	5	2	0		780
経常損益	2,376	10	-2,353	-15	3,799	37	-3,413	-134	-624	-208	365		150

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

(注1)(注2)は台帳面積と利用面積(作付面積)差の補正。

監 査 報 告 書

平成 18 年 2 月 19 日

農事組合法人酒人ふぁ～む
代表理事 谷口 榮治 様

監 事 林 勝久

監 事 山崎 征夫

私たち監事は、平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日までの第 4 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

平成18年度事業計画書

第三次3ヶ年事業計画（平成17～19年）

〔基本テーマ〕

「自立」と「自律」 夢（ビジョン）の具現化

〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり

〔基本方針〕

1. 「儲かる」から「儲ける」へ
2. 「売れる」から「売る」へ
3. 「できる」から「作る」へ
4. 「参加」から「参画」へ
5. 「集落」から「地域」へ

当地の視察が殺到しているのはなぜか。量から質への米政策の大転換で、各集落ともこれからの方向性を探るべく必死だからである。さて我が組合も安穩とはしているわけにはいかない。今は集落営農の1つのモデルとして注目されるだけにすぎず、新たなビジネスモデルに向け、必死に知恵をしばらなければ逆に取り残されてしまう。この3ヶ年が組合の将来を左右する大変重要な時期であることは言うまでもない。「何をしてきた」ではなく「何をするのか」が大事であると考え。ハードが完成した今、これからは真の実践3ヶ年となる。

これまでは、関係機関のお力添えで進めば良かったが、これからは自らが考え、自らの力で進める強固な組織でなければならない。そのためには、生産方法と販売方法を根本的に見直し、自らが「作り」自らが「売る」という基本的な仕組みづくりの確立が急務となる。

変化をチャンスと捉え、リスクに対しても果敢に挑戦し、集落営農基盤を確固たるものにし、後世に夢が継承できるよう業務に邁進する。

経営所得安定対策等大綱(平成17年10月農林水産省)

農林水産省、全国農業会議所資料引用

平成17年3月に「新たな食料・農業・農村基本計画」において、下記の重要施策が閣議決定されました。なかでも品目横断的経営対策では、これまでは全農家を対象とした、米・麦・大豆など品目毎の価格政策から、「担い手」を対象を絞り、経営全体に着目した所得政策(日本型直接支払い制度)へと転換されました。

1. 品目横断的経営安定対策

【面積条件】 本人が営農している農地基本台帳の現況地目「田」と「畑」の合計。

権現農地(農地法等に基づき所有権、賃借権等の権現を有する農地)だけでなく、作業受託(主な基幹作業を受託し、収穫物の販売名義と販売収入の処分権を保有)も経営規模面積に算入できます。

認定農業者	都府県4ha以上、北海道10ha以上(知事申請による特例あり)
集落営農組織	20ha以上 (知事申請による特例あり)

【担い手条件】 次のいずれかのみが支援の対象となります。

認定農業者	市町村が認定
集落営農組織 (努力目標)	(農用地の利用集積目標)、 規約の作成、経理の一元化 (主たる従事者の所得目標)、(農業生産法人化計画の作成)

【2つの支援策】

生産条件格差是正対策「ゲタ」	収入変動影響緩和対策「ナラシ」
<p>麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょ</p> <p>担い手の生産コストのうち、販売収入では賄えない部分を補填します</p> <p>担い手の生産コスト</p> <p>支払</p> <p>生産物の販売収入</p>	<p>米、麦、大豆、てん菜、でん粉用ばれいしょ</p> <p>その年の収入が基準となる収入を下回った場合に減収額の9割を補填します</p> <p>基準収入</p> <p>収入</p> <p>90%</p> <p>支払</p>
<p>「面積支払」生産者ごとの過去の生産実績に基づく支払 10aあたり単価×過去の生産実績</p> <p>「数量支払」毎年の生産量・品質に基づく支払 数量あたり単価×その年の生産量</p> <p>支払水準と の割合は未定!</p>	<p>品目ごとの基準収入(過去5カ年中庸3カ年の平均)と当該年収との差額を合算・相殺し、減収額の9割を、積立金の範囲内で補填します</p> <p>積立金は 基準収入の10%</p> <p>拠出割合～政府3：生産者1</p> <p>現行対策は2：1で生産者負担軽減!</p>

2. 米政策改革推進対策

【支援策】

現行対策	新対策
<p>米価下落の影響緩和</p> <p>「稲作所得基盤確保対策(稲得)」</p> <p>「担い手経営安定対策(担経)」</p>	<p>担い手を対象とする経営安定対策</p> <p>「品目横断的経営安定対策」</p> <p>ナラシ対策</p>
<p>米の需要に応じた生産を支援(地域への交付金)</p> <p>「産地づくり対策」</p>	<p>見直しを行いつつ継続実施</p> <p>従来の転作部分に対する産地づくり交付金とは別に、新たなメニューとして水稻部分に「担い手」以外の農業者にも米価下落等に応じた支払いができるようになります</p> <p>ただし「担い手」に農地の集積を誘導するため、3ヵ年で交付金は段階的に引き下げ(詳細は今年夏に決定)</p>
<p>豊作による過剰米処理を支援</p> <p>「集荷円滑化対策」</p>	<p>実効性を確保し実施する</p>

【新たな需給調整システム】

農業者	行政による生産目標数量の配分は行わず、農業者・農業者団体が主体的に需給調整を実施する
生産調整方針作成者	システムの中核となり、地域協議会等から提供される情報等を基に自らの生産目標数量を決定するとともに、方針に参加する農業者に対し、生産目標数量を配分する
地域協議会	方針作成者間の調整、担い手や自給的農家の扱い等の配分の一般ルールを設定し、地域全体を調整する

3. 農地・水・環境保全向上対策

農地・農業用水等の保全向上に関する地域ぐるみでの効果の高い共同活動

【活動指針】基礎部分(資源の適切な保管理)誘導部分(生産資源・環境資源の保全向上)

【国庫補助】水田 2,200 円 / 反、畑 1,400 円 / 反 同額を地方公共団体が上乗せ

農業者ぐるみで環境保全に向けた先進的な営農活動

これらの活動の質をさらにステップアップさせるための取組

部門別事業計画

生産部

栽培

「作る」・・・を統括する、集落営農の中核部門です。

やすらぎさん、すこやかさん、なごやかさん、そしてオペレーター群と役員、激変する農業情勢の中、農村集落「酒人」の将来をかけた、「作る」農業のスタートです。「安全・安心で良食味しかも低価格」と「三方よし」の食材を消費者に提供してこそ、農業に明日が存在します。

営業部との両輪で「売るために作る」を合言葉に、組合員はもとより、協力グループの皆様全員で今年こそ圃場で良い汗が流せる年にしてまいります。

[重点方針]

- 1 . 儲ける農業の実践 = 原価意識の徹底
- 2 . 品質・環境にこだわった農業の展開

[事業計画]

計画の完遂！！

穀類生産計画

水			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	5月植	1,425	570	9.5	81,230	1,354
		6月植	266	510	8.5	13,570	226
	小	計	1,691	561	9.3	94,800	1,580
	もち(羽二重)玄米		475	540	9.0	25,650	428
	合	計	2,166	556	9.3	120,450	2,008

小			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
麦	農林61号		1,597	240	4.0	38,330	639
	合		計	1,597	240	4.0	38,330

大豆			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
豆	ふくゆたか	種子用	565	210	3.5	11,860	198
		食糧用	766	180	3.0	13,790	230
合計			1,331	193	3.2	25,650	428

野菜栽培形態別生産計画

露地	品目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
地	ブロッコリー	168.0	525	(3kg) 175箱	8,820	2,940箱
	白菜	132.0	4,200	(15kg) 280箱	55,440	3,696箱
	キャベツ	16.0	2,100	(10kg) 210箱	3,360	336箱
	えびす南瓜	132.0	1,400	(10kg) 140箱	18,480	1,848箱
	玉ねぎ	30.0	3,500	3,500kg	10,500	10,500kg
	青ねぎ	12.5	1,750	1,750kg	2,190	2,190kg
	切花(小菊)	3.0	-	3,000束	-	900束

ハウス	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ス	小松菜	20.3	150	(200g) 750袋	3,045	15,225袋
	ほうれん草	1.8	150	(200g) 750袋	270	1,350袋
	サニーレタス	14.6	150	(250g) 600袋	2,190	8,760袋
	トマト	4.0	400	(4kg) 100箱	1,600	400箱
	みず菜	16.7	150	(200g) 750袋	2,505	12,525袋
	ジャンボニンニク	3.0	150	150kg	450	450kg

耕畜連携稲わら生産計画(JA稲わら生産供給組合)

稲わら			採集面積 (a)	10a当り		生産量	
				収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
飼料用稲わら			1,500	500	50	75,000	7,500
合計			1,500	500	50	75,000	7,500

露地野菜 栽培計画

露地栽培圃場面積252.5a

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
31-2 84a (すこやか)		キャベツ 10a	→										
35-1 95a (すこやか)		土づくり	→		かぼちや 95a	→			白菜 30a	→	白菜 35a	→	白菜 30a
35-2 96a (すこやか)			玉ねぎ 30a	→	ブロッコリー 36a	→			ブロッコリー 30a	→	ブロッコリー 36a	→	ブロッコリー 30a
34 37a (すこやか)			小麦 37a	→		かぼちや 37a	→				白菜 37a	→	
鉄塔の下 7.5a (すこやか)		土づくり	→		青ねぎ 7.5a	→			収		穫		
憩いの広場東 6a (すこやか)		土づくり	→	キャベツ 6a	→				ブロッコリー 6a	→			
西墓地南側 3a (すこやか)		土づくり	→			小菊 3a	→						
東墓地南側 5a (すこやか)		土づくり	→		青ねぎ 5a	→			収		穫		
西墓地西側 3a (なごやか)			ジャンボ ニンニク 3a	→						ジャンボ ニンニク 3a	→		

ハウス野菜 栽培計画

ハウス面積19.35a

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
ハウスNo.1 4.88a (4.6a) (なごやか)	サニー	レタス 4.6a	→	(水稲 苗育苗)	→		こまつな 2.3a 水菜 2.3a	→	こまつな 2.3a 水菜 2.3a	→		サニー	レタス 4.6a	
ハウスNo.2 4.28a (4.0a) (なごやか)		こまつな 2.0a 水菜 2.0a	→		こまつな 2.0a 水菜 2.0a	→		トマト 4.0a	→			サニー	レタス 4.0a	
ハウスNo.3 3.75a (3.6a) (なごやか)	こまつな 1.8a サニー 1.8a	レタス 1.8a	→		こまつな 1.8a ほうれん草 1.8a	→	こまつな 1.8a 水菜 1.8a	→	こまつな 1.8a 水菜 1.8a	→		サニー	レタス 3.6a	
ハウスNo.4 3.15a (3.0a) (なごやか)		こまつな 1.5a 水菜 1.5a	→	(水稲 苗育苗)	→			こまつな 1.5a 水菜 1.5a	→	こまつな 1.5a 水菜 1.5a	→		サニー	レタス 3.0a
ハウスNo.5 2.17a (2.0a) (すこやか)	花卉 (小菊)	→					花 卉 (小 菊) 2.0a	→						
ハウスNo.6 1.12a (1.0a) (すこやか)						各種野菜苗 育苗 1.0a	→							

労 務

播種から収穫まで、農産物は人の手で育てられます。昔から農の匠^{たくみ}は「美味しい」「うまい」の言葉に魅了されて、己のためでなく、広く消費者のために手間ひま惜しまず汗を流されたと聞きます。

さて、昨今の農業はどうでしょうか。農産物価格の低迷から、再生産原価すら割り込む状況が続いております。「売価」に見合った「コスト」が、経営を維持するうえでの最低条件となり、「労務対応」や「工程管理」が経営の最重要課題と言われます。コスト意識にたちながらも、共に喜べる労務管理を行いますので、組合員はもとより各グループの皆様、一層のご協力よろしく願います。

[重点方針]

- 1 . 生産コストの低減 = 効率作業の徹底
- 2 . 作業環境の向上

[事業計画]

コストへの挑戦！！

作業別労働（時間）計画

（単位：時間）

作業 月	水稻	稲わら	小麦	大豆	露地 野菜	ハウス 野 菜	共通 作業	合 計
1月	80				360	220	170	830
2月	90		30		500	290	200	1,110
3月	180		30		300	160	150	820
4月	320		40		400	190	310	1,260
5月	820		150		400	320	140	1,830
6月	230		310	120	300	440	150	1,550
上期	1,720		560	120	2,260	1,620	1,120	7,400
7月	620			250	400	360	170	1,800
8月	120			190	400	300	80	1,090
9月	490	100		90	400	390	90	1,560
10月	700	150		5	400	240	60	1,555
11月	100	270	230	30	400	300	180	1,510
12月	80		10	115	400	120	170	895
下期	2,110	520	240	680	2,400	1,710	750	8,410
合計	3,830	520	800	800	4,660	3,330	1,870	15,810

営 業 部

今年度新設された部ではありますが、機構改革の目玉であり、組織の将来を左右するセクションと言っても過言ではありません。

これまでは、「売る」ことを考えなくてもJAや市場に「売ってもらえる」ので営業は不要でした。「作ったから売る」「できたから売る」のではなく、「売るために作る」という逆転の発想へギアチェンジしなければなりません。

「担い手」であるわが組合も、いつまでも“安全圏”というわけにはいきません。中期計画の基本テーマである「自立」のためには、JAや市場にプラス新たな販路の確保が必要です。業販と直販のバランスを考え、最適な営業体制を構築してまいります。

[重点方針]

消費者の目線に立ち、「農作物」ではなく「商品」であるという意識で売らなければ支持は得られません。「売るための方策」を組合員皆様と真剣に考え、全員営業体制を確立させます。

[事業計画]

1 . 先進地の「営業」に学ぶ

視察ラッシュは続いておりますが、当地は先進地ではありません。なぜなら、営業では全く自立していないからです。初心に帰り先進地の勉強をし、酒人のスタイルを探ります。

2 . 身の丈にあわせた営業体制

背伸びせず、こだわり米の宣伝と販売からスタートします。区民の皆様の協力を頂き、縁故米販売に力を注ぎます。「酒人米」を一人でも多くのご親戚、ご友人にお勧めください。

3 . 新しい販路の開拓

生産部とも連携を密にした上で、生産供給体制に沿った販路開拓をします。スーパー、給食事業者、ビジネスホテルなど安定需要先にアプローチします。

4 . ホームページとの相乗効果

販促チラシにホームページのアドレスを記載し、まずお客様を呼び込みます。私どもを信頼して頂いたうえで「年間予約」注文の獲得を目指します。

5 . 直売所「旬の里（仮称）」開設へのいびき

販路の確保とあわせて、直売所を自ら売るための拠点づくりと位置づけます。機械施設部と連携して、候補地（“旬”の場所）選定や販売スタイル（“旬”のセールス）をコーディネートします。

穀類市場（マーケット）別販売計画

水	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	うるち玄米		800	12,000	9,600,000
	もち（羽二重）玄米		300	16,000	4,800,000
	小 計		1,100	-	14,400,000
稲	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）	販売高（円）
	うるち玄米		780	16,000	12,480,000
	もち（羽二重）玄米		128	20,000	2,560,000
	小 計		908	-	15,040,000
	合 計		2,008	-	29,440,000

小	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	農 林 6 1 号		600	8,000	4,800,000
	麦	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）
農 林 6 1 号		39	10,000	390,000	
合 計		639	-	5,190,000	

大	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	ふくゆたか	種子用	168	24,000	4,032,000
		食糧用	180	8,300	1,494,000
		小 計	348	-	5,526,000
豆	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）	販売高（円）
	ふくゆたか	種子用	30	24,000	720,000
		食糧用	50	16,000	800,000
		小 計	80	-	1,520,000
	合 計		428	-	7,046,000

野菜栽培形態別販売計画

露 地	品 目	出 荷 量	売価単価（円）	販売高（円）
	ブロッコリー	2,940 箱	1,200	3,528,000
	白 菜	3,696 箱	650	2,402,400
	キャベツ	336 箱	800	268,800
	えびす南瓜	1,848 箱	1,000	1,848,000
	玉 ね ぎ	10,500 kg	50	525,000
	青 ね ぎ	2,190 kg	200	438,000
	切花（小菊）	900 束	150	135,000
小 計				9,145,200

ハ ウ ス	品 目	出 荷 量	売価単価 (円)	販売高 (円)
	小 松 菜	15,225 袋	70	1,065,750
	ほうれん草	1,350 袋	80	108,000
	サニーレタス	8,760 袋	60	525,600
	ト マ ト	400 箱	1,000	400,000
	み ず 菜	12,525 袋	70	876,750
	ジャンボニンニク	450 kg	100	45,000
小 計				3,021,100
合 計				12,166,300

野菜市場 (マーケット) 別販売計画

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、個)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	2,600	3,120	40	48	2,400	240	1,200	120	2,940	3,528
白 菜	3,300	2,145	96	62	1,600	130	800	65	3,696	2,402
キャベツ	230	184	6	5	400	40	400	40	336	269
えびす南瓜	1,800	1,800	8	8	180	30	60	10	1,848	1,848
玉ねぎ	10,000	500	100	5	300	15	100	5	10,500	525
青ねぎ	1,900	380	100	20	100	20	90	18	2,190	438
切花(小菊)					600	90	300	45	900	135
小松菜	13,000	910	225	16	2,000	140			15,225	1,066
ほうれん草	500	40			850	68			1,350	108
サニーレタス	7,800	468	160	10	800	48			8,760	526
トマト	50	50	50	50	200	200	100	100	400	400
みず菜	12,000	840			500	35	25	2	12,525	877
ジャンボニンニク					450	45			450	45
合 計		10,437		224		1,101		405		12,166

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売計画 (JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲 わ ら	業	販	出荷量 (梱包)	出荷単価 (円/梱包)	販売高 (円)
		配 達			
	飼料用稲わら		引 取		
			5,000	420	2,100,000
			2,500	315	787,500
合 計			7,500	-	2,887,500

機械施設部

[重点方針]

これまでは、生産するための機械施設でありました。作業に連動した機械の整備だけでなく、「売るための機械施設」をメインテーマとし、守りではなく攻めの事業展開を実践してまいります。

[事業計画]

1. 直売所「旬の里（仮称）」建設計画の始動

営業部と連携をとり、先進的な直売所を調査研究、当地にあった「売る」ための拠点づくりを目指します。

国庫補助事業「強い農業づくり交付金」(補助1/2)の有効利用
18年度ソフト事業 19年度ハード事業

2. 酒人米の直販によるクリーン精米事業の底上げ

原則、お客様にお越しいただき、白米希望者には当精米所のご利用を勧め、コイン精米のリピーターを増加させます。

3. オペレーターの操作技術向上

昨年度の反省を活かし、操作技術指導や圃場での実地研修を実施し、若手オペレーターのレベルアップを図ります。

4. 機械施設の整備能力向上

J Aとは機械の保守契約を締結しているものの、急を要するトラブル対処や機械の長持ちにもつながる整備知識の習熟講習を実施します。

5. 売るための仕掛けづくりにチャレンジ

お客様からの注文を一元管理し、発送サービスや配達サービスで付加価値をつけます。そのために、作業兼配達用軽トラックをリース導入します。併せて、懸案の野菜栽培・大豆中耕専用管理機の補助事業にの導入を検討します。



[投資計画]

(単位：千円)

投資予定資産	取得費	予定補助金	負担金
ダンプ式軽トラック(リース)	(1,000)		
ハイクリトラクター	2,370	1,185	1,185
合 計	2,370	1,185	1,185

企画管理部

[重点方針]

来年度から農業政策がこれまでの全農家を対象とした品目毎の価格対策から「担い手」のみを対象とする所得対策に大幅転換します。わが農事組合法人はすでに要件を満たしており、支援は継続して受けられます。しかし、補助金は限定的で、所得も保証されたものではありません。

今年は、他集落にとって、集落営農組織にするのか、個別経営のままでいくのか、「決断する年」となりますが、わが法人は「実践する年」となります。視察ブームも「決断」に迫られているから真剣そのものです。わたくしたちは、過去に決断したビジョンを早く形あるものにしなければなりません。

部門の垣根を越えた、全員協力体制で組織のステップアップを図り、自らが「作り」自らが「売る」という、3カ年計画の基本テーマである「自立」した組織づくりのため、企画・管理面でのサポート役に徹してまいります。

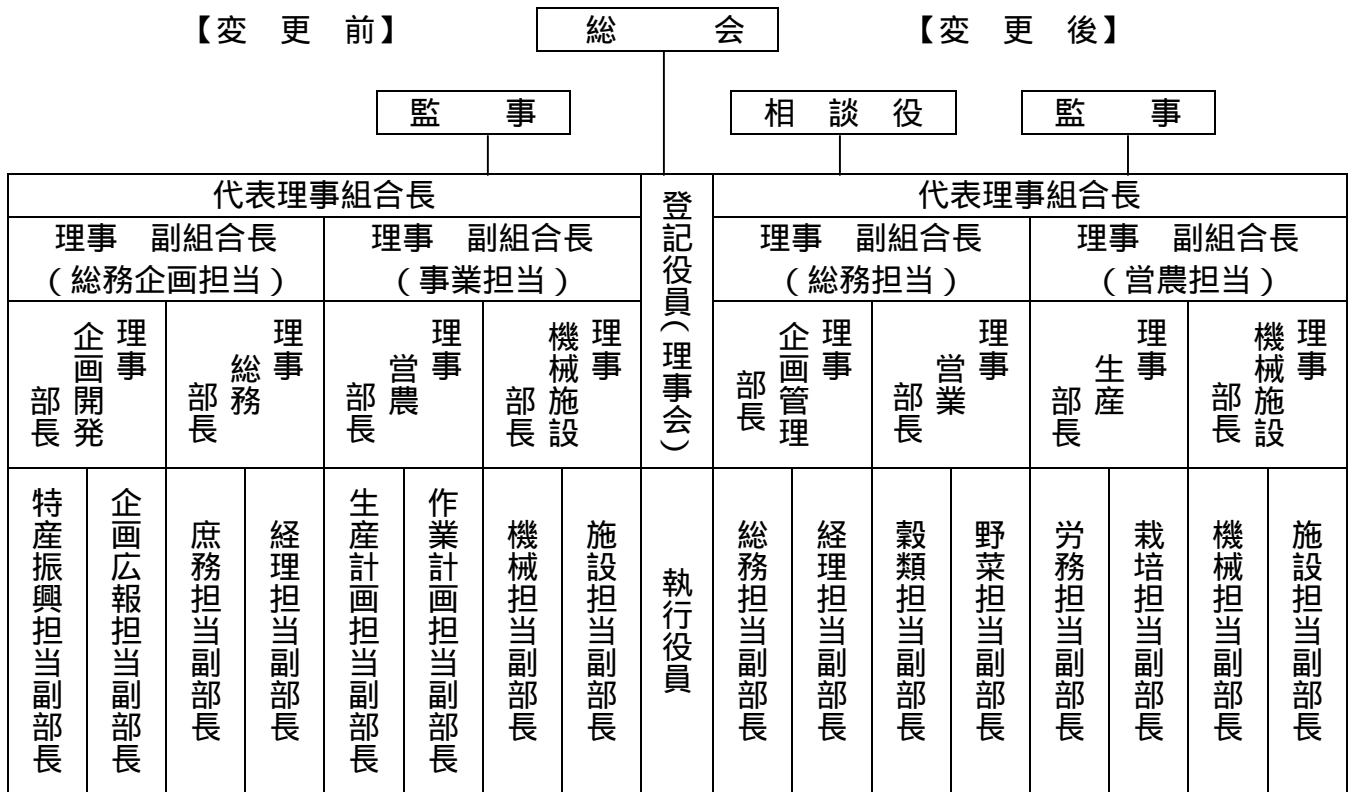
[事業計画]

1. 組織の機構改革

- 【趣 旨】** 組織を営農事業と総務事業に分け、「いかに作り」「いかに売る」かを明確にします。
「相談役」を理事会のパートナーと位置づけ、主に理事・監事のOBで構成し、代表理事への提言とアドバイス役とします。

最重要課題である「生産」と「販売」に対する意気込みを対外的にアピールするとともに、組合員の付託に応えねばならないという緊張感ある組織とします。

部	事業目的
企画管理部	企画開発部と総務部の統合 組織全体の企画管理を統括
営業部 (新設)	中期計画の「儲ける農業の実践」 「売る」ことの重要性を認識 業販に頼らない直売ルートの開拓 「売れる」から「売る」へ
生産部	企画開発部の特産振興を統合し営農部を拡充 「できる」から「作る」へ 19年産からの「品目横断的経営安定対策」に対応 「営業部」とは“車の両輪” 適地適作・高効率生産を目指す組合の中核部門
機械施設部	生産をサポートする機動力の維持確保 費用対効果の追求



2. 新理事による新しい経営

理事会が責任ある意思決定をなし、任期3年間の舵取りをいたします。
 機械・施設がほぼ整った今、現状に安住するのではなく、組織も経営も進化しなければ逆に飲み込まれてしまいます。これまでのやり方を見直す良い機会であり、ムダを排除し、攻撃的かつ効率的な経営を目指します。

3. 資金繰りの安定化

農業政策の変化や生産方法の変更で、売上金の回収時期が変わり、資金計画に差異が生じた場合、その都度短期の借入で賄ってきました。
 生産部や営業部との連携を密接にし、作付け計画段階で当部も関与し、資金回収期間の短縮と分散化をはかり、資金繰りに余裕をもたせます。

4. 滋賀県農業法人労務協会への加入

会員である滋賀県農業法人協会の中に、労働保険事務組合「滋賀県農業法人労務協会」が設立されます。2月に加入し、4月から事務委託の予定です。協会会員は年会費が無料で、現行の事務経費軽減が図れます。

5. 法人による拠点施設用地の取得

換地終了にともなう事務所格納庫の底地取得
 圃場 30 - 1 予定精算金 17a × 150 千円 / a = 2,550 千円

財務計画・損益計画(平成18年)

(単位:千円)

	科 目	平成17年残高	平成18年度			平成19年度繰越	
			増	減	残	残	
貸 借 対 照 表	流動資産	42,617	78,400	77,459	43,558	43,558	
	現金預金	17,160	57,400	61,659	12,901	12,901	
	その他	25,457	21,000	15,800	30,657	30,657	
	固定資産	75,444	0	6,300	69,144	69,144	
	外部出資	50			50	50	
	資産の部計	118,111	78,400	83,759	112,752	112,752	
	流動負債	15,194	17,000	15,000	17,194	17,194	
	固定負債	76,908	2,300	8,610	70,598	70,598	
	集積準備金	0	2,300		2,300	2,300	
	長期借入金	76,908		8,610	68,298	68,298	
資本の部	26,009	17,119	18,168	24,960	24,960		
出資金	4,480			4,480	4,480		
利益剰余金	21,529	17,119	18,168	20,480	20,480		
利益準備金	3,361	1,119		4,480	4,480		
当期剰余金	18,168	16,000	18,168	16,000	16,000		
前期繰越剰余金	0						
負債・資本計	118,111	36,419	41,778	112,752	112,752		

	科 目	平成17年残高	平成18年度			平成19年度繰越	
			増	減	残	残	
損 益 計 算 書	事業収益						
	販売高		69,000		69,000		
	総事業費用						
	生産資材費		13,800		13,800		
	労務費		200		200		
	その他生産費		32,000		32,000		
	(減価償却費)		6,300		6,300		
	事業費用合計		46,000		46,000		
	< 事業総利益 >		23,000		23,000		
	事業管理費						
	共通管理費		6,600		6,600		
	(農用地集積準備金繰入)		2,300		2,300		
	< 事業利益 >		16,400		16,400		
	事業外損益			900		900	
	営業外収益			2,300		2,300	
営業外費用			1,400		1,400		
< 経常利益 >			17,300		17,300		
法人税等			1,300		1,300		
< 当期剰余金 >			16,000		16,000		

任期満了による役員を選任について

(定款 第19条 第20条)

役員推薦委員会により推薦された役員候補者名簿

理事候補者（7名）

小林 伊佐治

伴 慎也

福西 義幸

西村 清秋

東浦 常夫

林 信博

坂田 精平

監事候補者（2名）

奥村 信行

谷口 榮治

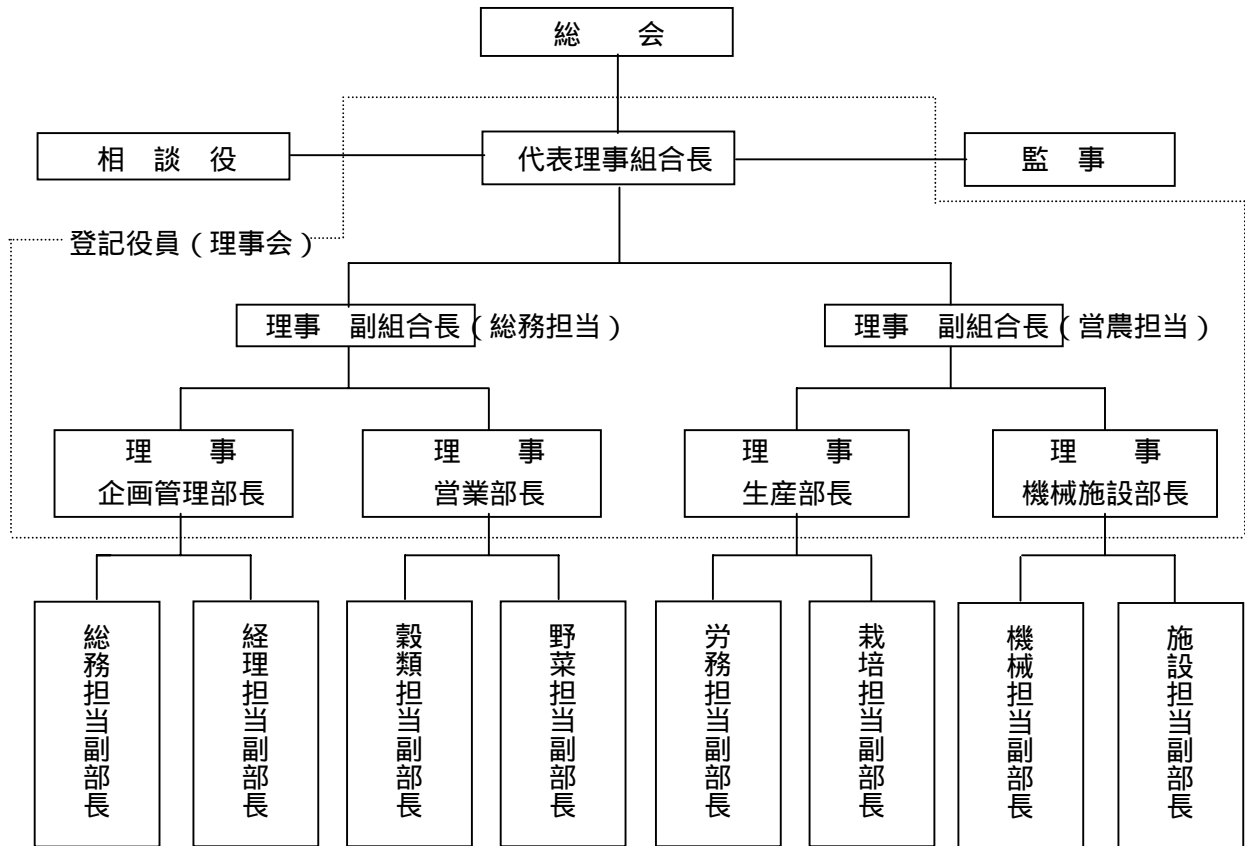
敬称略 順不同

理事の職務担当につきましては理事の互選とします。

監事の職務担当につきましては監事の互選とします。

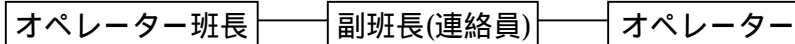
農事組合法人酒人ふぁ～む組織図

平成18年2月26日現在



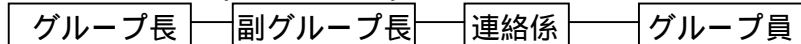
酒人ふぁ～む協力組織

オペレーターグループ (ふぁ～む直轄)



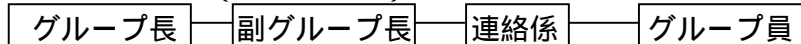
酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で営農意欲のある20歳以上55歳以下の男子（登録制）

なごやか営農グループ (組合員組織)



酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務（作業）に出役頂ける56歳以上65歳未満の男子及び20歳以上65歳未満の女子

すこやか営農グループ (組合員組織) ~ 酒人老人会のメンバー



シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務（作業）の一部を担当頂くグループ

やすらぎ営農グループ (ボランティア) ~ 酒人敬老会の大関・横綱グループ

囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人



農事組合法人 酒人ふぁ～む